



医療法人社団 芙蓉会
ふよう病院
芙蓉ミオ・ファミリア町田
グループホームあおぞら
デイサービスふれあいルーム
千葉芙蓉病院
きやらの樹ケアセンター

芙蓉会社内報

やすらぎ

平成27年6月発行

ふよう便り

ふよう病院

院内職員研修会報告

4月開催「新年度の挨拶」

発表者：佐藤院長・四ヶ所理事長

佐藤院長： 垣谷美雨著「七十歳死亡法案、可決」という本を題材にした、講義でした。

高齢化社会の中での家族のあり方を問う内容から、今後の介護体制はどうあるべきなのか、また、当院として医療看護介護にどのように取り組むべきなのかを考えさせられました。

四ヶ所理事長： 4月からの介護報酬改定に伴う変更点や、現在行っている病院機能評価受審のための活動、在宅分野におけるサービス内容の充実、各施設での新しい取り組み（公文式導入）など、今年度の法人全体としての方針が発表されました。

<まとめ>

現在の医療・介護業界において、競争競争が厳しい中、また今回の介護報酬改定で介護報酬が引き下げられるという逆風のもと、それでも法人として、サービスの質を向上させ、患者様やご利用者様に喜ばれ、選ばれる施設になるためにはどうしたら良いのか。

問題点を見つける目と、それを改善する行動力を持ち、さらに邁進しなくてはならないと思いました。



院内職員研修会報告

5月開催「新入職員研修会」

発表者：佐藤院長・四ヶ所理事長・看護部長

内容 幹部紹介、挨拶

院長： 当院の現状とターミナルケア等について

理事長： 当法人及び創業者の年譜、創業からの理念「老人は国の宝」について

看護部長： 看護部の紹介、勤務時の心構え等について

入職し1～9か月経過している職員が、この研修会を受講しました。

当法人を選び、入職した職員の皆様には、少しでも長く勤務していただけるよう、法人としても働きやすい職場づくりに力を入れていきたいと考えています。



認知症サポーター養成講座開催

講師：

グループホームあおぞら 平川久美ホーム長
町田市シルバー人材センター 都築元郎氏

4月18日（土）、ふよう病院にて、町田市在住の方を対象に認知症サポーター養成講座を開催致しました。当初40名の参加者予定で募集しておりましたが、予想以上の反響に募集定員を増やし、二部構成にして、約85名の方にご参加いただきました。

認知症サポーター養成講座とは、平成17年度から厚生労働省により開始された事業で、認知症についての正しい知識と理解を身につけ、認知症の方や、そのご家族の気持ちを理解し、支えになるような手助けをする人を養成する講座です。

今回の講座では、まず、認知症対応事例のDVDをご覧いただいた後、キャラバンメイトの講師資格をもつ平川ホーム長が、認知症の症状やそれにより起こる具体的な行動や心理状態、治療、支援の方法などを、実体験を交えながら講義しました。次に、都築氏より「健康な高齢者を目指して」と題して、いつまでも住み慣れた地域で生活できるよう、具体的な介護サービスの案内などのお話がありました。

質疑応答の後、約40名の施設見学ご希望者を、各施設にご案内致しました。ご参加いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。



講義のポイント

認知症の人への対応の心得 「3つの“ない”」

- 1 驚かせない
- 2 急がせない
- 3 自尊心を傷つけない

具体的な対応のための7つのポイント

- 1 まずは見守る
- 2 余裕をもって対応する
- 3 声をかけるときは1人で
- 4 後ろから声をかけない
- 5 相手に目線を合わせて優しい口調で
- 6 穏やかに、はっきりした話し方で
- 7 相手の言葉に意味を傾けてゆっくり対応する



認知症サポーターの証（オレンジリング）をお持ち帰りいただきました



出展 認知症サポーター養成講座標準教材
認知症を学び地域で支えよう
全国キャラバン・メイト連絡協議会

第27回運営懇談会

4月18日(土) 芙蓉ミオ・ファミリア町田3階食堂兼機能訓練室において、第27回運営懇談会が行われ、16名のご家族にご出席いただきました。

<内容>

理事長：現在の、介護業界を取り巻く環境をふまえての挨拶

施設長：ご入居者様の概要や、運営及び職員の状況等の報告、

看護科長：ご入居者様への医療面の対応についての説明と、「見るということ」をテーマにした話

ケアマネジャー：ご入居者様の日常生活上のアシメント時の対応、ご家族へのご連絡等について

介護主任：各イベントの報告と、あるご入居者をお看取りした時の話

施設長代理：学習療法の導入に向けて、導入目とDVDを交えた内容の説明、準備開始の報告

最後に、前回の懇談会後に新しく入られたご入居者様のご家族をご紹介させていただきました。年度も全3回の懇談会を予定しております。よろしく願い致します。



サンドイッチバイキング

4月20日(月) この日のお昼は、サンドウィッチバイキングでした。こぼれる程たっぷりのクリームにフルーツを散らしたフルーツサンド、マリネに卵フィリングをアレンジしたさっぱりサンド、オーソドックスなハムチーズサンドはチーズ多め。ふわふわのパンに、お好きな具材を組み合わせることで、オリジナルサンドの出来上がり。取り合わせにも具材のバランスにも個性があふれます。意外な人気モノは、なんと、あんことクリームを挟んだデザートサンドでした。

挟み方を相談したり、おいしく作って他のご入居者様におすすめしたり、おしゃべりにも花を咲かせながら、皆様、できたての味をお腹いっぱい楽しんでいらっしゃいました。中には、

作ったオリジナルサンドをスタッフにごちそうしてくださった方も。絶妙なマッチングがとても美味でした。ごちそうさまでした。



外食会

今年の外食会は、参加希望の方が例年よりも多かったのですが、和食レストランとお寿司、どちらのお店に行きたいかを事前にうかがって、数名ずつに分かれて行ってまいりました。メニューを見て何にしようか悩んだり、ビールを飲んだり、食事のあとにデザートをいただいたり。外気を吸って、心もお腹も満たされた楽しいひとときとなりました。



たこ焼きパーティ

5月21日（木）たこ焼き会を催しました。ご入居者様のいらっしゃるスペースの中で、スタッフがくるくるとひっくり返しながら、アツアツのたこ焼きを焼いていきます。「たこ焼き」と

いっても中身はカニかまぼこだったりチーズだったり、いろいろです。ご入居者様は、次は何が入っているのかな、などとお話ししながら、久しぶりのB級グルメを喜んでくださいました。



「見る」ということについて

～ 4/18 運営懇談会での話より～

人間には、シンプルに「見る」という動作ができないのだと、ある小説で読んだことがあります。もちろん「見る」という動作はありますが、これは「観察する」「評価する」「見下す」「睨む」「見つめる」など、何かしら意味を伴う動作のことで、人間には、目玉を動かすだけで、ただ単に「見る」などということとはできないのだそうです。

反対に、「見えてしまう」ということがあります。これは、病気などによって見える「幻覚症状」「幻視」と呼ばれるもののことです。この原因としては、次のようなものがあげられます。

1. 譫妄（せんもう）状態と呼ぶ軽い意識障害があるとおこりやすいもので、どのパーキンソン病の薬でも生じる可能性があります
2. 脱水や感染など体の異常によるもの
3. パーキンソン病そのものによるもの
4. レビー小体型認知症に伴うもの

実際には見えないものが、本人にはありありと見えてしまう状態で、その多くは小動物や人間です。例えば「ネズミが這い回っている」「知らない人が部屋に座っている」「子供がいるのでお茶を出してあげたい」など。実際にこちらの施設でもありました。とても具体的な訴え方をしてくるのが特徴です。似た症状として、「錯視」といって、人形を人と見まちがえたり、丸めておいてある洋服が動物に見えてしまったりという状態もあります。

また、ものが見える範囲が障害される「視覚障害」があります。脳卒中、頭部外傷、低酸素脳症の後遺症として高次脳機能障害の症状のひとつです。症状としては、次のようなものがあります。

1. 視野が通常より狭くなる「視野狭窄」
2. 視野の半分が欠ける「半盲」
3. 見えない部分が見える「暗点」

当施設でも、こういった症状が原因で、お食事の時に膳の中にある5種類ほどの食器の「手

前だけ食べる」「左側だけ食べる」という方がいらっしゃいます。職員が良く観察して、食べ終わったお皿と手のつかないお皿の場所を入れ替えるようにして対応すると、どの食器にも手を付けていただけます。

この他にある障害として、「失認」というものがあります。「視空間失認」といって、立体的で上下と前後左右のある三次元の空間を正しくとらえることが困難になる症状や、「視覚失認」といって、画像が認識できない、色が認識できないという症状です。

高齢者の感覚機能低下のひとつに、視力の低下があり、人間誰しも40歳くらいから老眼などが始まってきますが、白内障、緑内障、糖尿病性網膜症、老人性黄斑部変性症などの病態もあります。高齢者の方々が、その時々健康状態に応じて自律と依存のバランスを取ることができるよう、潜在能力を引き出し、その方の生活の質を維持、向上できるように働きかけるのが、私たちの役割だと思っています。

看護課長 小倉隆子



新たな挑戦

毎朝 9 時からテレビを見ながらの「みんなの体操」が日課になってから数年が経ちました。皆さん馴染みはありますが、毎日数年続くと…。そんな時ガンバルーン体操にお誘いをいただいて、ご入居様と一緒に参加することになりました。ボールを使用しての緩やか動きは皆様にはピッタリ。早速購入してみました。南第一高齢者支援センターさんから地域で活動されている方をご紹介いただき、4 月 24、30 日の 2 日間ご指導をいただきました。1 時間の中で途中クイズを混ぜたりと、ご入居様が疲れないうように配慮していただき、笑い声の多い会になっていました。次回も楽しみです。



花壇コンクール「努力賞」いただきました

ボランティアの方々に支えられて、いつも季節の花が咲き乱れているグループホームの花壇。町田の花壇コンクールで、今年は努力賞をいただきました。お陰様で、今年も春を迎える頃からたくさんの花を楽しむことができました。私たちだけで見ているのは、もったいないくらいです。



繋がって「輪」

あおぞらに入居されていた方のご家族で、退去後も包丁を研ぎに定期的に来てくださっていた方が、いきいきポイント活動に登録されることになり、先日、初めてのポイント活動としてあおぞらのスタンプを押しました。グループホームあおぞらは、たくさんの方々に支えていただいています。



お花見ドライブ

4月1日～4日、ふれあいルームでは、満開の桜を楽しみにお花見ドライブに出かけました。今年、開花宣言後に暖かい日が続き、一斉に桜の花が満開に。つくし野の桜のトンネル、恩田川、東雲寺、桜公園、と、どこへ行っても満

開の桜が出迎えてくれて、ご利用者様からは感嘆の声があがっていました。東雲寺では、花桃、みつまた、桜の花が咲き誇り、ご利用者様も車から降りて境内を散策し、日本の四季の素晴らしさを堪能されていらっしゃいました。



園芸活動（ふれあい農園）

ふれあい農園の第一弾として、イチゴの苗を個人の鉢に植えました。皆様、スタッフの助けを借りつつ熱心に作業をしておられました。園芸を通して、適度の運動や、仲間との会話、収

穫の楽しみを感じていただけたら嬉しいです。これからも苗の成長を見守りながら、収穫の日を楽しみに待ちたいと思います。



菖蒲湯

5月5日は「端午の節句」の日ということで、浴槽に菖蒲を入れ、入浴していただきました。

菖蒲は、江戸時代から男児の出産を祝い、端午の節句に菖蒲湯に入ることが習慣となりました。又、菖蒲は邪気を払うと言われ、日々元気に過ごし少しでも季節を感じて頂けるようにと、

短い時間でしたが入浴していただきました。一年に一度しか味わえない菖蒲湯に、患者様も皆様笑顔で喜ばれていらっしゃいました。



千葉芙蓉会 合同見学会

4月4日（土）千葉医療法人の見学会を行いました。君津事業所のお客様、5家族8名の方をご自宅までお迎えに行き「きゃらの樹ケアセンター」、「千葉芙蓉病院」、「特別養護老人ホーム 上総園」をご覧いただきました。また、見学の後は、老健で提供している食事をご試食いただきました。

ました。

参加の方から「充実した施設があって心強い」とのお言葉をいただき、実際に翌月、ご入所いただいた方もいらっしゃって、とても有意義な催しとなりました。



お花見

毎年恒例の、お花見バスハイクです。今年は見ごろが例年より早く、また肌寒い日となり、2班目、

3班目は車上からのお花見になりました。この場所に来るようになって早10年近くになります



が、小さかった樹木も立派になり、有数の名所となりました。関東でも一番遅い開花といわれる亀山の桜を見に、来年はぜひ皆様にもお越しいただきたいです。



千葉の託児所開設

建築途中の様子を以前の紙面でもお知らせしましたが、4月1日（水）に無事に千葉託児所がオープンしました。4月は当法人職員15人の利用があり、上総園の職員さんの利用も含めると

延べ177人の乳幼児をお預かりしました。今後も、小さな子供をもつ職員が安心して仕事できるよう、法人としてバックアップしていきたいと考えています。

